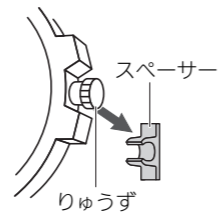


本機をご使用になる前に

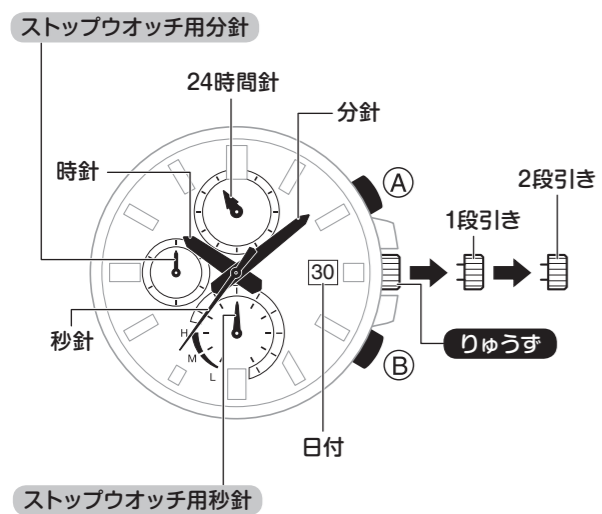
商品によっては、出荷時にスペーサーが組み込まれていることがあります。スペーサーが組み込まれている場合は、本機をご使用になる前に取り除いてください。

- スペーサーを取り除いた後は、「りゅうずについて」と「時刻を合わせる」をお読みになり、時刻を合わせてください。

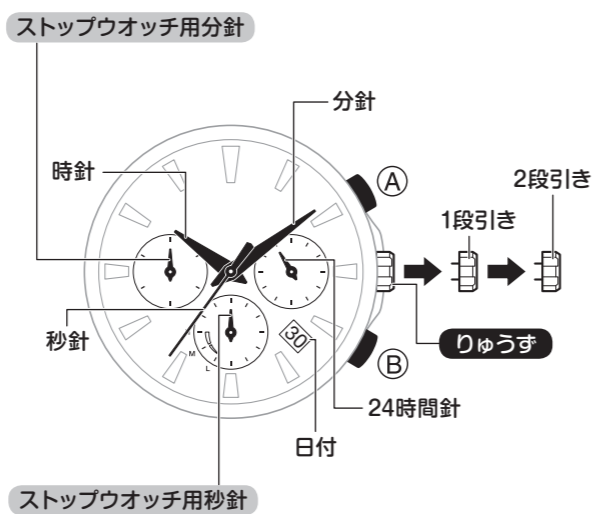


この時計の使いかた

< モジュール 5529/5530/5585 >



< モジュール 5557/5564 >

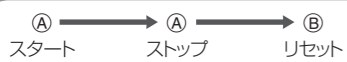


ストップウォッチ機能

ストップウォッチを使う

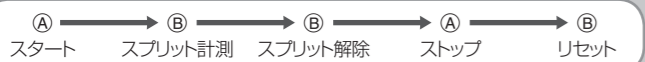
1秒単位で29分59秒まで計測できます。

通常計測



積算計測…ストップ後リセットせずに(A)ボタンを押して再スタートすれば、表示タイムに引き続き計測を始めます。

スプリットタイム(途中経過時間)の計測



1・2着同時計測



重要:

- りゅうずを引いたまま計測しないでください。

参考:

- 30分計測すると自動的に止まります。

針の基準位置を修正する

計測をリセットしたとき、ストップウォッチ用の針が12時位置に戻らない場合は、以下の手順で針の基準位置を修正します。

りゅうず を2段引く

(A) (右回り) または (B) (左回り) ボタンを押して、ストップウォッチ用秒針 と ストップウォッチ用分針 を12時位置に合わせる

ボタンを押し続けると、早送り・早戻しできます。

ストップウォッチ用分針 は ストップウォッチ用秒針 に連動して進みます。

りゅうず を戻す

重要:

- りゅうずを引いている間は時刻表示の針も止まるため、時刻を合わせ直してください。

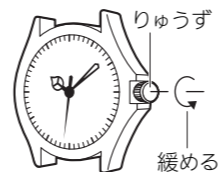
製品仕様

精度	平均月差±20秒
使用電池	二次電池
持続時間	約5か月(光を当てないで使用した場合)
ストップウォッチ機能	計測範囲 29分59秒(30分計) 計測単位 1秒 計測機能 通常計測、積算計測、スプリット計測、1・2着同時計測
その他	バッテリー充電警告機能

改良などのため、仕様は予告なく変更されることがあります。

りゅうずについて

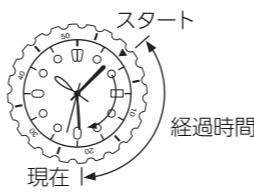
防水時計の一部(主に10気圧/20気圧防水)は、りゅうずがねじ込み式になっています。時刻合わせなどの操作をする場合は、りゅうずを反時計回りに回し、ネジを緩めてからりゅうずを引いてください(無理に引っ張らないでください)。



なお、りゅうずのネジを緩めた状態では防水機能を保てません。時刻合わせなどが終わったら、必ずりゅうずのネジを締めてください。締めるときは、りゅうずを軽く押しながねじ込んでください。

回転ベゼルのついているものは

回転ベゼルを回して▼マークを分針に合わせて、その位置をスタートとして経過時間を知ることができます。



時刻を合わせる

秒針が12時位置のとき

りゅうず を2段引く

りゅうず を回して時刻を合わせる

時報などに合わせてりゅうず を戻す

参考:

- 午前/午後を間違えないように合わせてください。
- 時刻を合わせるときは、合わせたい時刻より4~5分進めてから逆に戻して合わせてください。

日付を合わせる

りゅうず を1段引く

りゅうず を左に回して日付を合わせる

りゅうず を戻す

参考:

- 日付は31日制です。日数が異なる月は修正してください。
- 午後9時から午前1時の間に日付合わせをしないでください。正確に切り替わらない場合があります。

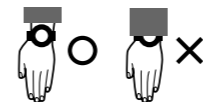
ソーラー充電について

この時計は、ソーラーパネルによって発電した電気をバッテリー(二次電池)に充電しながら使えます。ソーラーパネルは文字板と一体になっており、文字板に光が当たっているときは常に発電し充電しています。ご使用の際は、文字板(ソーラーパネル)に光が当たるように心がけてください。

充電の方法



時計を腕から外しているときは、光が当たる明るい場所に置いてください。1か月に1回、半日ほど日光に当てて充電すると、より安定した状態で使用できます。



腕につけているときは、文字板(ソーラーパネル)に衣類の袖がかからないように心がけてください。文字板(ソーラーパネル)の一部でも隠れていると発電量が低下します。

注意:

- 充電の際、光源の条件や環境によっては時計本体が非常に高温になることがありますので、火傷をしないように注意してください。
- また、以下のような高温下での充電は避けてください。
 - 炎天下に駐車している車のダッシュボードの上
 - 白熱灯などの発熱体に近い所
 - 直射日光が長時間当たり、高温になる所

バッテリー表示

りゅうずを戻した状態で、(B)ボタンを約1秒間押し続けると、ストップウォッチ用秒針が約2秒間バッテリー残量を表示します。



H: 4か月以上
M: 2~4か月
L: 2か月未満

充電不足や充電切れ

充電不足になると警告機能が働いてお知らせします。速やかに充電してください。

メンテナンスについて

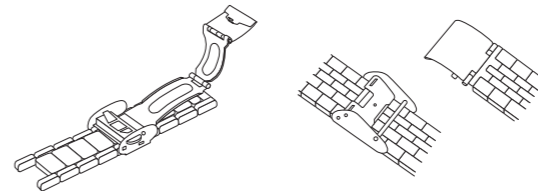
本製品で使用している電池について

- 専用の二次電池を使用しておりますので、お客様は電池を取り外さないでください。専用の二次電池以外の電池を入れると時計の破損の原因になります。
- 二次電池は、ソーラーパネルが受ける光により充電されますので、一次電池のような定期的な電池交換の必要はありません。ただし、二次電池は長期的なご使用や使用環境により容量や充電効率が低下しますので、充電しても「使用できる時間が短くなった」と感じたときは、「修理に関するお問合せ先」またはお買い上げの販売店にご相談ください。ご希望により保証期間経過後は有料で充電点検調整いたします。

金属バンドの駒詰めについて

金属バンド(フリータイプの中留構造バンド※を除く)の駒詰めには専用の工具が必要となります。お取り扱いによる、部品の変形や破損、またはけが等を予防するためにも、お買い上げの販売店にご相談ください。なお、「修理お申込み先」においても保証期間内は無償、保証期間経過後は有償にて承っております。詳しくは、「修理に関するお問合せ先」へお問い合わせください。※中留をスライドさせて長さ調整するフリータイプのバンドでは、駒の取り外しはできません。

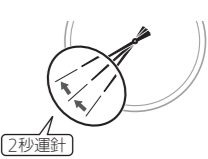
(例)



バッテリー充電警告機能

バッテリーが充電不足になると、秒針が2秒ごとに動いて充電不足をお知らせします。

<充電警告表示>



充電にかかる時間

充電時間の目安として下表を参照してください。

1日、使用するために必要な充電時間

環境(照度)	充電時間
晴れた日の屋外など(50,000ルクス)	約6分
晴れた日の窓際など(10,000ルクス)	約23分
曇りの日の窓際など(5,000ルクス)	約36分
蛍光灯下の室内など(500ルクス)	約6時間

充電容量の回復に必要な時間

環境(照度)	1秒運針までの充電時間	充電が完了するまでの時間
晴れた日の屋外など(50,000ルクス)	約2時間	約21時間
晴れた日の窓際など(10,000ルクス)	約6時間	約78時間
曇りの日の窓際など(5,000ルクス)	約10時間	約125時間
蛍光灯下の室内など(500ルクス)	約96時間	—

参考:

- 実際の充電時間は環境によって異なります。

お手入れについて

お手入れのしかた

時計も衣類同様、直接身につけるものです。長くお使いいただくために、汚れ・汗・水分などは柔らかい布などでこまめに拭き取り、常に清潔な状態で使用ください。

- 海水や泥がついた場合は、真水でよく洗い流してください。
- 金属バンドおよび樹脂バンドの金属部品は、柔らかい歯ブラシに中性洗剤を水で薄めた液や石鹸水をつけて、こすり洗いをしてください。その後、洗剤成分を水でよく洗い流し、柔らかい吸湿性の良い布などで水分を拭き取ってください。なお、洗うときは「調理用ラップを巻く」などして、時計本体に洗剤や石鹸水がかからないようにしてください。
- 樹脂バンドは、水で洗い、柔らかい布などで水分を拭き取ってください。また、樹脂バンドの表面にシミのような模様が発生することがありますが、人体および衣類への影響はありません。布などで拭き取ってください。
- 皮革バンドは、水や汗がついた場合には、柔らかい布などで軽く拭いてください。
- りゅうずやボタンや回転ベゼルは、長期間操作しないと動きが悪くなる場合があります。ときどき、りゅうずや回転ベゼルの回したり、ボタンを押したりしてください。

お手入れを怠ると

<さび>

- 時計で使用している金属はさびにくい性質ですが、汚れによりさびが発生します。
 - 汚れにより酸素が絶たれると、表面の酸化皮膜が維持できなくなり、さびが発生します。
- さびが発生すると、金属部分に鋭利な箇所ができたり、接合部のピンが飛び出したり抜け落ちたりすることがあります。異常に気がついた場合は、ご使用をやめて、修理(有償)を「修理お申込み先」またはお買い上げの販売店にお申し付けください。
- 表面はきれいでも、すきまに付着した汚れやさびがしみ出して、衣類の袖を汚したり、皮膚がかぶれたり、時計の性能が劣化することがあります。

<劣化>

- 樹脂バンドや樹脂ベゼルの、汗などの水分で濡れたままにしておいたり、湿気の多い場所に放置すると経年劣化し、切れたり、折れたりすることがあります。

<かぶれ>

- 皮膚の弱い方や体調により、かぶれたりすることがあります。特に、皮革バンドや樹脂バンドをお使いの方は、こまめにお手入れをしてください。万一、かぶれた場合には、そのバンドの着用を中止し、皮膚科の専門医にご相談ください。